

平成 28 年度 第 2 回燕市学校給食運営委員会会議録（要旨）

日 時：平成 29 年 2 月 14 日（火） 15 時 30 分から 16 時 30 分

場 所：燕市西部学校給食センター 会議室

出席委員：燕東小委員（燕東幼稚園委員）、燕西小委員、燕北小委員、小池小委員、大関小委員、小中川小委員、粟生津小委員、吉田北小委員、分水小委員、小池中委員、燕北中委員、吉田中委員、分水中委員、学校薬剤師

欠席委員：燕南小委員、吉田小委員、分水北小委員、島上小委員
アレルギーオブザーバー

委託業者：(株)味彩燕、(株)メフォス

事務局：教育次長、学校教育課長、課長補佐、副参事、学校栄養職員、学校給食係

1、開会あいさつ 教育次長

2、議事進行

(1) 報告

①東部学校給食センター建設について

事務局から、建設概要について説明。

②給食・食育だよりについて

西部学校給食センターと燕地区給食センター（味彩燕）が、市内統一献立で給食提供を行っていることについて説明。

③平成 28 年度学校給食残量調査について

事務局からの資料に基づき、結果の報告。

④その他

●平成 28 年度学校給食会計監査について

監査の結果、不適切な取り扱いによる指摘事項がなかったことを報告。

●食物アレルギー対応について

今年度、市のホームページに追加した情報、全小中学校に「アレルギー症状発生時の緊急連絡体制・役割分担」の校内掲示を行って、緊急時に備えるよう依頼したことなどについて報告。

●給食川柳の実施と表彰式について

資料に基づき、実施の報告。

(2) 質問・意見交換

●残量調査について

委員 残量調査の目的は、今後、残食率は 0%を目指していくべきか。どのように指導して行ったら良いか。

調査実施日を公表しないで本当の実態調査をして欲しい。

事務局 国の栄養量調査の一環として、配膳量は適切か、嗜好はどうかなどを把握するために実施している。

食品ロスの観点からも残食は少ない方が良いが、決して無理強いすることなく、体格差などに応じた適正な食事量を先生方からも判断していただきながら、残量が0になるような取組をしていただきたい。

調査については、抜き打ちの残食調査を行うことも検討していく。

●給食川柳について

委員 選定するにあたって、評価する基準、指標のようなものはあるか。

事務局 選定基準は設けていない。選んだ人の感性が反映されている。

●給食内容について

委員 教育委員会で、味彩燕と西部学校給食センターの給食を食べ比べる機会はあるか。

事務局 教育委員会でも味彩燕の給食を試食し、西部学校給食センターと味付けなどに差がないことを確認している。平成30年の東部学校給食センター稼働にむけ、味彩燕の研修も始まっており、稼働後も同等な給食を提供できると期待している。

●東部給食センターについて

委員 西部学校給食センターと東部学校給食センターで、ソフト面での違いは。

事務局 アレルギー対応、地産地消、食育など、同様の対応を行っていく。なお、栄養教職員も西部学校給食センターと同様、2名配置される予定。

3.閉会のあいさつ 堀学校教育課長